

一般社団法人日本写真学会 第4回 定時社員総会

日 時：平成 27 年 6 月 17 日（水）17：20～19：00
会 場：一橋大学一橋講堂 2F 中会議場 2
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

【第1号議案】平成 26 年度事業報告

1. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第 5 条（1））

1-1 学会誌の刊行に関する事項

- 1) 発行回数 4 回 77 巻 2 号～4 号, 78 巻 1 号
- 2) 総頁数 393 頁
- 3) 特集
2014 年日本写真学会年次大会講演要旨 (77 巻 2 号)
第 2 回アンビエント技術セミナー (77 巻 2 号)
2013 年のカメラ (77 巻 3 号)
2013 年の写真の進歩 (77 巻 3 号)
2014 年日本写真学会秋季研究発表会講演要旨 (77 巻 4 号)
励起状態のマネジメント (77 巻 4 号)
画像保存 (78 巻 1 号)

4) 主要掲載事項および件数（Web 英文論文誌 BSPIJ を含む）

一般論文	6 件	口 絵	4 件
ノートおよびレター	1 件	紹 介	4 件
技術レポート	0 件	報 告	0 件
講 座	4 件	書 評	2 件
解 説	21 件	会 報	4 件
資 料	1 件	その他（受賞者案内）	1 件

- 5) 年次大会の講演要旨集を学会誌 2 号に、秋季研究発表会の講演要旨集を学会誌 4 号に含めて発行した。
- 6) 科学技術振興機構の電子アーカイブ J-STAGE に、発行後 1 年経過した論文・解説等の記事を掲載した。

1-2 学術図書の刊行に関する事項

「写真の事典」の編集作業を行い、平成 26 年 9 月に朝倉書店より刊行した。

2. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第 5 条（2））

2-1 研究発表会、講演会などの実施

- 1) 第 9 回写真好きのための定例講演会（平成 26 年 5 月 2 日、東京都写真美術館）
テーマ：「東京都写真美術館の写真保存の実際」と「バックヤード見学」山口孝子氏講演
参加者：26 名
- 2) 2014 年度年次大会研究発表講演会（平成 26 年 5 月 26～27 日、千葉大学 けやき会館）
特別講演『世界を席卷する日本のカメラの魅力とそれを支える技術と人』（パネルディスカッション形式）として世界に冠たる日本のカメラ産業を支える技術者に、日本のカメラの今と、仕事の魅力を語って頂いた。（コーディネーター・司会：豊田堅二、パネラー：平井 勇（リコーイメージング株式会社）、松澤良紀（オリンパスイメージング株式会社）、前野 浩（キヤノン株式会社）、村上直之（株式会社ニコン）、長 倫生（富士フイルム株式会社）、井上義之（パナソニック株式会社）、小山武久（株式会社シグマ））
受賞講演 9 件、一般講演計 42 件、インタラクティブ（ポスター）セッション 13 件、総報告件数 64 件、参加者数 112 名
- 3) 第 10 回写真好きのための定例講演会（平成 26 年 5 月 31 日、日本大学芸術学部江古田校舎）
テーマ：「『黒白ファインプリントの名作』を見る」（写真展に出品されている作品の作家の紹介）と「フォロアレクチャー付き写真展の鑑賞」西垣仁美教授講演
参加者：25 名
- 4) PHOTONEXT2014 技術アカデミー（平成 26 年 6 月 17 日東京

ビックサイト）

テーマ「写真が創る豊かなライフスタイル～セッションⅠ：最新デジタルカメラの技術と表現力、セッションⅡ：多彩な写真プリントの技術動向」

セッションⅠ：セッション数 3 件、セッションⅡ：セッション数 4 件

参加者数 71 名（延べ）

5) 光機能性材料セミナー（平成 26 年 6 月 27 日東京工芸大学中野キャンパス）

テーマ「励起状態のマネジメント」

基調講演「新しい有機発光材料の登場有機 EL への展開」安達千波矢先生（九州大学）

一般講演 4 件、参加者数：35 名

6) 第 11 回写真好きのための定例講演会（平成 26 年 6 月 30 日、ニコン大井製作所大井ウエストビル）

テーマ：「『ニコン Df』の開発秘話」後藤研究室室長 後藤哲朗氏、三浦康晶氏 講演

「NIKKOR の設計思想と『AF-S NIKKOR58 mm f/1.4 G』の開発背景」

開発部 稲留清隆氏、佐藤治夫氏 講演

参加者：43 名

7) 第 14 回アンビエント技術研究会（平成 26 年 8 月 26 日、東京工業大学すずかけ台）

テーマ：「オール印刷有機 TFT アレイフィルム of 自動連続生産技術」JAPER/コニカミノルタ

西真一氏 講演と技術討論

参加者：14 名

8) 第 12 回写真好きのための定例講演会（平成 26 年 9 月 17 日、富士フイルム 神奈川工場足柄サイト）

テーマ：「『インスタントの技術』の開発秘話」、「塗布機見学（カラーフィルムの多層同時塗布

の原理紹介と試験用小型塗布機の見学）」と「Alfred Stieglitz の写真ジャーナル“Camera Work”12 冊の閲覧とスマホ de チェキなどの展示」

イメージング材料生産部 吉田哲夫氏、本橋賢氏 講演

参加者：42 名

9) 第 15 回アンビエント技術研究会（平成 26 年 10 月 16 日、東京工芸大中野キャンパス）

テーマ：最新の有機半導体材料の新展開

「光でつくるフェナセン：合成と電子材料への展開」

岡山大学大学院自然科学研究科 岡本秀毅先生 講演

「屈曲型縮環パイ電子系有機半導体材料の科学」

東京大学大学院新領域創成科学研究科 岡本敏宏先生 講演と技術討論

参加者：13 名

10) 平成 26 年度画像保存セミナー（平成 26 年 11 月 14 日、東京工芸大学中野キャンパス）

次世代に伝えるべき記録と価値ある写真画像、またその他の画像記録物の確実な保存を目指し、その知識の普及と技術の確立を目的として画像保存セミナーを開催した、（第 31 回）。今年度はアメリカにおける写真保存・修復、教育・普及の第一人者である、デラウェア大学デボラ・ヘス・ノリス先生により、災害を受けた写真の修復を中心に講演が行われた。さらに HDD

によるデジタル情報の保持と復旧についても講演が行われた。講演 5 件、参加者数 113 名

11) 第 13 回写真好きのための定例講演会（平成 26 年 11 月 14 日、国立天文台三鷹キャンパス）

テーマ：「すばる望遠鏡から 30 m 望遠鏡 TMT への望遠鏡技術の発展と天体写真から得られる学術的な成果についての講

- 演」と「国立天文台 4D2 U 上映と施設見学」
国立天文台 家正則教授 講演
参加者：48 名
- 12) 第 22 回カメラ技術セミナー（平成 26 年 11 月 19 日 国立オリンピック記念青少年総合センター）
セミナーテーマ「若手技術者のために 知識の共有化と技術者の交流を目指して」
講演数 6 件，参加者数 125 名
- 13) 第 14 回写真好きのための定例講演会 in 京都（平成 26 年 11 月 20 日，京都工芸繊維大）
テーマ：「『ニコン Df』の開発秘話」後藤研究室 三浦康晶氏 講演
「NIKKOR の設計思想と『AF-S NIKKOR58 mm f/1.4 G』の開発背景」
開発部 佐藤治夫氏 講演
参加者：38 名
- 14) 画像関連学会連合会 第一回秋季合同大会（平成 26 年 11 月 20 日～21 日，京都工芸繊維大学 60 周年記念館他）
【主催】画像関連学会連合会，【共催】京都工芸繊維大学
・全体基調講演（参加費無料）I 会場：60 周年記念館 1F 記念ホール
『知っておきたい視覚のメカニズム』京都大学名誉教授 江島義道氏
＜11/21 研究討論会：合同オールセッション＞（件数）
・日本写真学会オールセッション： S1 会場+S2 会場：(18 本)
・日本画像学会オールセッション： I 会場：(10 本)
・画像電子学会オールセッション： E 会場：(9 本)
・日本印刷学会オールセッション： G 会場：(10 本)
＜11/21 研究討論会：合同ポスターセッション＞（件数）
・PA01-PA18 / I 会場：60 周年記念館 1F 記念ホール (18 本)
・PB01-PB10 / G 会場：総合研究棟 4F 多目的室 (10 本)
・PC01-PC19 / E 会場：センターホール 2F 大会議室 (19 本)
基調講演 1 件，オールセッション 47 本，ポスターセッション 47 件，参加者数延べ 102 名
- 15) 第 3 回アンビエント技術セミナー（平成 27 年 1 月 16 日，富士フイルム（株）東京ミッドタウン本社）
テーマ：プリンテッドエレクトロニクス（Printed Electronics）「印刷プロセスからみた材料技術の新展開」
* プリンテッドエレクトロニクスの実現には，印刷プロセスに適した電極，有機半導体，絶縁体の材料技術が重要となります。本セミナーでは，印刷プロセスの現状と材料技術への期待についての基調講演に加え，最先端の電極材料，有機半導体材料，絶縁材料に関連する著名な先生方の講演を企画いたしました。材料とプロセスを適合させる上での課題が明らかになることを目指し，セミナーを行った。
基調講演 1 件，講演 5 件，参加者数 39 名
- 16) 第 15 回写真好きのための定例講演会（平成 27 年 1 月 19 日，国立文化財機構 東京文化財研究所）
テーマ：「科学写真に関する文化財研究についての講演」と「東京文化財研究所企画情報部保存修復科学センターの見学」
東京文化財研究所 城野誠治氏 講演，桶田真理氏 案内
参加者：38 名
- 17) page2015 オープンイベント技術アカデミー（平成 27 年 2 月 5 日，サンシャインシティ文化会館）
講演 3 件，参加者 51 名
- 18) CP+2015（平成 27 年 2 月 12 日～15 日，パシフィコ横浜）
【日本写真学会企画】
・学術団体展示コーナー（平成 27 年 2 月 12 日～15 日，パシフィコ横浜展示ホール）
展示コーナー来場者 多数
・エンジョイフォトステージ（平成 27 年 2 月 15 日，パシフィコ横浜会議センター 304 室）

- 参加者 258 名
【日本写真学会協力】
・CP+技術アカデミー
参加者：10 件，各約 60 名
- 19) 第 48 回光学五学会関西支部連合講演会（平成 27 年 2 月 28 日，大阪市立大学文化交流センター・ホール）
テーマ「光で感じる動と静」とし，光に関わる工学・デザイン・芸術の各分野からの講演を行った。
講演 4 件，参加者 29 名
- 20) メディカルイメージング連合フォーラム（共同開催 平成 27 年 3 月 2～3 日，石垣島ホテルミヤハラ）
- 21) 第 16 回アンビエント技術研究会（平成 27 年 3 月 30 日，東京工芸大中野キャンパス）
講演 2 件，参加者 20 名
3. 研究及び調査の実施（定款第 5 条（3））
- 3-1 技術委員会の部会・研究会再編
技術領域の多様化や産業構造の変化に対応すべく，従来の 6 部会と昨年設置した科学写真研究会（委員会直下組織）に加え，新たに，写真文化拡大部会に写真好きのための定例講演会実行委員会，新規プリンティング技術セミナー実行委員会，写真好きのためのワークショップ（仮称）実行委員会を新設して編成した。
- 【画像入出力部会】
画像入出力研究会，カメラ技術研究会，表現と技術研究会
- 【アンビエント画像部会】
アンビエント画像研究会
- 【医用画像部会】
医用画像研究会
- 【画像保存部会】
画像保存研究会，画像保存セミナー実行委員会，デジタルアーカイブ研究会
- 【アンビエント技術部会】
アンビエント技術研究会，光機能性材料研究会
- 【写真文化拡大部会】
写真好きのための定例講演会実行委員会，PHOTONEXT 写真学会技術アカデミー実行委員会，CP+技術アカデミー，新規プリンティング技術セミナー実行委員会，写真好きのためのワークショップ（仮称）実行委員会，デジタル写真基礎講座実行委員会
- 【科学写真研究会】
3-2 部会・研究会活動
各部会・研究会は，以下のような活動を行った。
- 【画像入出力部会】
カメラ技術研究会，表現と技術研究会ではセミナーや会合を通じて活発な活動を行った。
・画像入出力研究会
今年度は研究会としての活動はなかった。
・カメラ技術研究会
7 回の研究会を開催した。第 22 回カメラ技術セミナーを企画・運営した。
・表現と技術研究会
「写真好きのためのワークショップ（仮称）」の企画に参加した。
- 【アンビエント画像部会】
・アンビエント画像研究会
平成 26 年度は研究会開催の都合がつかず，顔画像の見えるの改善に関する基礎検討を各委員が行った。
- 【医用画像部会】
・医用画像研究会
平成 27 年 3 月 2～3 日に，石垣島ホテルミヤハラにて，メディカルイメージング連合フォーラム 2015 を他学会とともに開催（共催）した。
- 【画像保存部会】
今年度は，第 17 回から第 20 回の 4 回の部会を開催し，画像保存研究会およびデジタルアーカイブ研究会の体制構築，運営を推進

した。

・画像保存研究会

年次大会の企画・運営に参加した。平成 26 年度画像保存セミナーを企画・運営した（11 月 14 日開催，有料参加者 100 名）。

・デジタルアーカイブ研究会

年次大会および平成 26 年度画像保存セミナーの企画・運営に参加した。

デジタル画像の保存に関し，クラウドによるデータ保存の勉強会「Amazon AWS によるデータアーカイブ」を開催した。

【アンビエント技術部会】

・アンビエント技術研究会

アンビエント技術研究会を 3 回（第 14 回研究会：平成 26 年 8 月 26 日，東京工業大学すずかけ台，第 15 回研究会：平成 26 年 10 月 16 日，東京工芸大中野キャンパス，第 16 回研究会：平成 27 年 3 月 30 日，東京工芸大中野キャンパス）開催した。

第 3 回アンビエント技術セミナーを『プリンテッドエレクトロニクス（Printed Electronics）「印刷プロセスからみた材料技術の新展開」』をテーマに企画し，平成 27 年 1 月 16 日，富士フイルム（株）東京ミッドタウン本社にて開催（基調講演 1 件，講演 5 件，参加者数 39 名）した。

・光機能性材料研究会

第 11 回光機能性材料セミナー，「励起状態のマネジメント」を企画し，平成 26 年 6 月 27 日東京工芸大学中野キャンパスにて開催（基調講演を含む講演数 5 件，参加者数 35 名）した。

【写真文化拡大部会】

・CP+エンジョイフォトステージに写真学会企画として「フォトライフを彩る星の撮影」のタイトルで，写真学会会員のアマチュア写真家の中から天体写真に造詣が深い 3 名（塩田和生，蒔田剛，山野泰照の 3 氏）による講演会を行った。

・CP+の写真学会展示コーナーで，エンジョイフォトステージの講演者 3 名の天体写真，接写およびソフトフォーカス写真の作品と，「画像からくり」の機材を展示した。また，名刺及び連絡先の記入で写真学会誌 1 冊を無料で進呈することで学会への入会案内を積極的に行った。

・PHOTONEXT 技術アカデミー，CP+技術アカデミーの各実行委員会（または担当者）を統括した。各セミナーの実績については 2-1 参照。

・従来の写真技術セミナーに代わる“写真好きのためのワークショップ”の企画準備検討会議を写真芸術学会と共同で 3 回実施した。今期は時間がなくて開催できなかったが来季開催にむけて活動を継続する

【科学写真研究会】

・年次大会・秋季研究発表会での原子核乾板に関する研究発表を勧誘し，年次大会で関連 14 件，秋季研究発表会で関連 15 件の発表を行い，この分野の拡大を図った。

3-3 技術委員会 進歩レビュー分科会活動：「写真の進歩」作成
専門分野別の技術進歩年次レビュー「2013 年の写真の進歩」作成を行い，学会誌（77 巻 3 号）およびホームページ上で報告した。

4. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款第 5 条（4））

4-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会，討論会などの実施

1) PHOTONEXT2014 技術アカデミー（平成 26 年 6 月 17 日東京ビックサイト：日本写真学会主催）

写真感光材料工業会共催，テーマ：「写真が創る豊かなライフスタイル」（1）最新デジタルカメラの技術と表現力，（2）多彩な写真プリントの技術動向

2) 第 51 回アイソトープ・放射線研究発表会（平成 26 年 7 月 7～9 日，東京大学農学部弥生講堂，日本アイソトープ協会主催，その他 64 学会と共催）

3) 平成 26 年度画像保存セミナー（平成 26 年 11 月 14 日，東京工芸大学中野キャンパス：日本写真学会主催）
東京工芸大学共催

4) page2015 オープンイベント「日本写真学会技術アカデミー」（平

成 27 年 2 月 5 日，サンシャインシティ文化会館：日本写真学会主催）

日本印刷技術協会協力，プリンティングセミナー，受講者 49 名

5) CP+技術アカデミー（平成 27 年 2 月 12～2 月 13 日，パシフィコ横浜：カメラ映像機器工業会主催）

日本写真学会協力

6) CP+学術団体コーナー展示（平成 27 年 2 月 12 日～2 月 15 日，パシフィコ横浜：日本オプトメカトロニクス協会・日本光学会と共同）

学会活動紹介及び写真作品展示 参加者 多数

7) 第 48 回光学五学会関西支部連合講演会（平成 27 年 2 月 28 日，大阪市立大学文化交流センター・ホール）テーマ「：光で感じる動と静」日本写真学会共催

8) メディカルイメージング連合フォーラム 2015（平成 27 年 3 月 2～3 日，石垣島ホテルミヤハラ：日本アイソトープ協会主催）
日本写真学会共催

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 5 条（5））

5-1 平成 26 年度学会賞の授与

授賞式において，平成 26 年度学会賞の授与を行った。学会賞受賞者は次の通りであった。

名誉賞 該当者無し

功績賞 松本政雄（大阪大学）

功労賞 岩本康平（セイコーエプソン）

学術賞 白山真理（日本カメラ博物館）

技術賞 宮成洋（キヤノン），新谷大（パナソニック）

進歩賞 福田努（東邦大学），高橋覚（神戸大学）

論文賞 谷忠昭¹⁾・飯野裕明氏²⁾・内田孝幸³⁾・半那純一²⁾（1）写真学会フェロー，2）東京工業大学，3）東京工芸大学，大槻理恵^{4),5)}・横田朋宏⁴⁾・坂巻剛⁴⁾・富永昌治⁵⁾（4）カネボウ化粧品，5）千葉大学）

東陽賞 富士フイルムフォトサロン（富士フイルム）

会長表彰 該当無し

5-2 平成 26 年度コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励金（写真研究奨励金）授与

授賞式において，平成 26 年度コニカミノルタ写真研究奨励金の授与を行った。

交付対象者：大野玲（東京工業大学）

5-3 平成 26 年度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与

授賞式において平成 26 年度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与を行った。

交付対象者：白石幸英（山口東京理科大学），中竜大・浅田貴志（名古屋大学）

5-4 平成 27 年度学会賞選考

平成 27 年度の学会賞は，各選考委員会の推薦を受け，次のように理事会で決定した。

名誉賞 該当者無し

功績賞 該当者無し

功労賞 井上直夫（奈良文化財研究所）

学術賞 宮本公明（元富士フイルム）

技術賞 高田浩祐・高橋宏輔・古田善工・河口武弘（富士フイルム），河村岳（パナソニック）

進歩賞 乾達也（シグマ），森島邦博（名古屋大学）

論文賞 今泉祥子・谷口敢一（千葉大学），水越康裕・山田勝実（東京工芸大学）

東陽賞 金子隆一（写真史家，学校法人写真学園理事長）

会長表彰 該当無し

5-5 平成 27 年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考

平成 27 年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金は，選考委員会の推薦を受け，次のように理事会で決定した。

交付対象者 白石幸英（山口東京理科大学）

5-6 平成 27 年度日本写真学会小島裕研究奨励金交付対象者の選考
平成 27 年度日本写真学会小島裕研究奨励金は，選考委員会の

推薦を受け、次のように理事会で決定した。

交付対象者 福田努（東邦大学）

6. その他目的を達するために必要な事項（定款第5条（6））

6-1 総会（1回）

平成26年5月27日（火）、千葉大学・けやき会館（千葉市）において一般社団法人化に移行後3回目の定時社員総会が開催され、平成25年度事業報告、平成25年度決算報告並びに会計監査報告、画像関連連合会設立の件、平成26年度事業計画案、平成26年度収支予算案、平成26年度役員等の選任（壇上臨時理事会による会長・副会長選任の報告含む）、会員の除名の計7件の議案が承認された。

6-2 理事会（7回）

隔月定例に開催し、本学会の運営に必要な事項を審議した。

1) 会務分担

役員及び会務の分担は次の通りであった。

・理事：

会長・「写真好き」のための定例講演会実行委員長

小林裕幸（千葉大学）

副会長（企画・総務）・総務理事・医用画像部会長・拡大PT

委員長 中野 寧（コニカミノルタ）

副会長（技術）・90周年記念事業企画委員長

小林和久（三菱製紙）

西部支部長・画像関連学会連合会秋季合同大会実行委員長

岩崎仁（京都工芸繊維大学）

庶務委員長・進歩レビュー分科会主査

吉田英明（オリンパス）

財務委員長 甲田謙一（日本大学）

技術委員長 吉田哲夫（富士フイルム）

編集委員長 山田勝実（東京工芸大学）

広報委員長 桑山哲郎（キヤノン）

アンビエント技術部会長 半那純一（東京工業大学）

画像保存部会長 大関勝久（名古屋大学）

写真文化拡大部会長 四方律夫（セイコーエプソン）

画像入出力部会委員・CP+/PHOTONEXT セミナー特命

鈴木博文（ニコン）

副庶務委員長・写真文化拡大副部会長・カメラ技術研究会

井上義之（パナソニック）

副総務理事・カメラ技術研究会 松澤良紀（オリンパス）

新規プリンティング技術分野特命

郡司秀明（日本印刷技術協会）

画像保存副部会長 山口孝子（東京都写真美術館）

・幹事：

副編集委員長・ICAIプログラム委員長

久下謙一（千葉大学）

広報副委員長 匠瑤俊雄（ニコン）

画像入出力部会長 豊田堅二（武蔵野美術大学）

画像保存部会・研究会 高橋則英（日本大学）

アンビエント画像部会長 津村徳道（千葉大学）

医用画像副部会長 桑原孝夫（富士フイルム）

医用画像研究会 松本政雄（大阪大学）

アンビエント技術研究会副主査・光機能性材料研究会

稲垣由夫（富士フイルム）

アンビエント技術研究会副主査 飯野裕明（東京工業大学）

アンビエント技術研究会副主査 宮本公明（富士フイルム）

アンビエント技術研究会・光機能性材料研究会

内田孝幸（東京工芸大学）

岩本康平（セイコーエプソン）

・監事：

三宅洋一（千葉大学）

高田俊二（千葉大学）

・事務局長（兼）会勢拡大委員長 山岸 治

2) 役員研修会（8月）

会長以下の役員が研修会を開催し、本学会の会勢拡大の具体的な進め方について議論した。

平成26年8月21日（木） 三菱製紙（株）本社11階会議室
研修課題：「画像学会連合会およびICAIを通して、部会・研究会活動の活性化を図る」

日本写真学会の会勢拡大の具体的な進め方について研修を実施した。

(1) 画像関連連合会～統合研究会候補の技術領域について

(2) ICAI各Trackの技術分野の課題設定状況

(3) ハイアマも含めた層へ向けての研究会設置と宣伝・勧誘活動

6-3 支部の運営に関する会議

1) 西部支部幹事会

4回の幹事会を開催し、講演会、見学会などの企画、準備および支部運営に関する協議を行った。

6-4 各委員会

1) 役員等選考委員会

役員等の選考を行った。

2) 人事委員会

学会職員の勤務状況と処遇についての協議を行い、来年度の処遇を決定した。

3) 庶務委員会

平成25年度事業報告並びに平成26年度事業計画案の総会承認を得た。活動計画表、組織系統図を更新した。平成26年度事業報告案並びに平成27年度事業計画案を作成し、理事会承認を得た。

4) 財務委員会（2回）

平成25年度決算報告並びに平成26年度予算案の総会承認を得た。平成26年度中間決算内容を審議し承認した。会の活動状況改善、特に財務改善の検討を行った。平成26年度決算報告並びに平成27年度予算案を作成し、理事会承認を得た。

5) 編集委員会（4回）

学会誌の編集方針、特集記事の企画検討、「解説」、「口絵」、「写真のある美術館・博物館・資料館」などの著者選定を行った。年次大会と秋季研究発表会の講演要旨を学会誌に組み込むことで、会員全員へ向けての情報発信を強化した。投稿論文の勧誘を行い、掲載論文数の増加を図った。英文論文誌BSPIJ（BULLETIN OF THE SOCIETY OF PHOTOGRAPHY AND IMAGING OF JAPAN）をWeb版として発行した。

6) 技術委員会（電子メールによる会議、随時）

3-1項に記載した技術委員会の部会・研究会再編成を行うにあたり、新技術部会長からなる技術委員会を会議及び電子メールで随時実施し、本年度技術委員会所属の研究会活動を推進した。傘下の進歩レビュー分科会が日本写真学会誌「2013年の写真の進歩」を担当。

7) 企画実行委員会（電子メールによる会議、随時）

新規事業の企画ならびに実行のための活動を模索したが、委員会組織が未整備なため限定的であった。

8) 国際交流委員会

映像情報メディア学会・画像電子学会・日本印刷学会・日本画像学会と共催で画像関連学会国際会議の開催を行う為、企画委員会・プログラム委員会を編成し（当会からは、久下謙一・中野寧・山岸治が参画）具体化を検討中。2015年6月17～19日に1st International conference on Advanced Imaging 2015 (ICAI2015)として実施する。

9) 広報委員会

ホームページのタイムリーな更新と新たな運用を行うことにより、会員への情報提供サービスを向上させた。「写真好き」のための定例講演会の広報にはバナーを活用した。また、「写真のある美術館・博物館・資料館」の企画に連動し、開催中あるいは開催予定のイベント広報ページをpdfファイルで作成、ダウンロードしリンク先のWebサイトにアクセスできるというサービスを行った。

英文論文誌の発刊に対応し、英文論文のpdfファイルと暫定版の英文論文誌トップページを新設した。刊行と同時に公開する運用を行っている。

「CP+（プラス）2015」では、「エンジョイ・フォトコーナー」で日本写真学会からの講演を行うことに対応した展示を行った。また写真学会の年間活動内容等の紹介を行った。（2月12日～2月15日、パシフィコ横浜）更に学会誌1冊を渡すのと交換に連絡先の情報を収集し、会員増加運動の一環とした。

10) 会勢拡大委員会

研究・講演事業での入会キャンペーンや「写真好きのための定例講演会」での写真愛好家向けの講演会など会員のメリットの告知を通して、会員外の一般に対して本学会入会への勧誘・啓蒙活動を行った。

11) 事典出版委員会

写真の事典の編集を引き続き進めた。原稿の内容を精査し、組み版への作業を進めて、2014年9月に朝倉書店から刊行した。

6-5 各担当

1) 画像関連学会連合会

2014年4月1日に発足し、画像関連学会連合会代議員に代表理事3名（小林会長、小林副会長、中野副会長）および山岸事務局長が参画して、連合会課題に関して、討議を行い、理事会承認の元に、連合活動を推進した。

2) 画像関連学会連合会：3Dタスクフォース活動

画像関連学会連合会の分科活動として「3Dプリンティング」に関する調査・検討活動を開始した。2014年8月20日に4つの学会に呼び掛け、9月30日に第1回の打ち合わせを行った。以後、ほぼ1か月に1回の頻度で打ち合わせを行い、3Dプリンティングに関する動向調査と学会活動として手掛ける内容について討議を行っている。2015年8月にシンポジウム開催を計画している。（担当：桑山理事）

3) 科学技術振興機構

科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づいて、昨年度に引き続き、科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行った。

7. 会勢

本年度末（平成27年3月31日現在）における会員の異動状況は、次の通りである。

	本年度末 (平成27年3月31日現在)	前年度末 (平成26年3月31日現在)	増減
正 会 員	770 名	757 名	13 名増
賛助会員	40 社	42 社	2 社減
合 計	810 名	799 名	11 名増

以上

【第2号議案】平成26年度決算報告並びに会計監査報告 (9ページ参照)

【第3号議案】平成27年度事業計画（案）

1. 基本方針（定款第4条）

- 一般社団法人化四年目の年度とし、会費増だけに頼らない法人会計財政改善、学会誌刊行事業の財政改善、講演・研究事業の財政改善を実行する年度と位置付け、H26年度からのH27年度～H28年度での回復を著実に軌道に乗せる。
- 写真に関する基盤技術の深耕と基盤技術から更に次世代の画像情報分野への領域拡大と写真文化の裾野拡大の為に、①高度情報通信社会に適合する次世代の画像映像情報分野の技術としてのアンビエント技術部会、アンビエント画像部会、②デジタルも含めた画像保存部会及び最新の医用分野での医用画像部会、③写真産業を支える画像情報技術としての画像入出力部会と写真文化の裾野を拡大する施策と活動の写真文化拡大部会の6部会活動の活性化と科学写真研究会の活性化および部会・研究会活動を通じた会員拡大を行う。

これらの技術部会活動推進の為、年次大会・研究会・セミナー・学会誌刊行・電子広報の充実及び画像関連学会連合会での所属学会との連携強化と関連する工業会・協会との連携強化を目指す。

- 写真及び画像に関する技術領域を拡大し、研究成果の発表及び関連情報提供の為、写真学会誌の充実と学術図書の刊行を行う。
- 会員へのサービスを第一義としながら社会公益性の観点からも学会の運営を行う。
- 以下のことを特に本年度の重要課題として位置付け、行動する。
 - ①画像入出力部会、アンビエント画像部会、医用画像部会、画像保存部会、アンビエント技術部会、写真文化拡大部会の6つに再編された技術部会と各研究会とセミナー等の実行委員会を組織化して、調査・研究の充実化を図る。
 - ②画像関係国際会議（2015ICAI）を共催5学会を連携し、企画と実行を行う。
 - ③各技術部会での新規技術領域の調査・研究の充実化を図る。
 - ④写真好きの写真愛好者を対象にした、写真知識・写真文化の会勢拡大を図ると共に事業的な側面の充実を図る。
 - ⑤学会誌の充実の為、英文論文誌の発行及び投稿数の拡大を図る。
 - ⑥画像関連学会連合会としての活動を強化する。
 - ⑦学会広報体制の強化と学会情報の活発な発信を図る。
 - ⑧写真技術の保存・継承行動の企画（出版、博物館協同等）。

以上の基本方針の基に、以下の事業を企画、実施する。

2. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第5条（1））

2-1 学会誌の刊行

- 学会誌を年間4冊発行する。
- 秋季研究発表会の要旨集を4号として発行する。
- 論文投稿を積極的に勧誘し、親切な審査により質の高い論文を数多く掲載する。あわせて投稿料収入の増加を図る。

2-2 英文論文誌「Bulletin of the Society of Photography and Imaging of Japan」の発行

- 6.12月発行予定の英文の論文誌をweb誌として発行し、論文の投稿を積極的に呼びかける。
- 英文誌に掲載された論文の題目や著者を分野別に整理した上で、画像4学会の会員に電子メールでお知らせする。

3. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））

3-1 研究発表会、講演会などの実施

- 1st ICAI 2015 The 1st International Conference on Advanced Imaging（平成27年6月17日～19日、一橋講堂）
- 第12回光機能性材料セミナー（平成27年7月15日、東京工芸大学（予定））
- PHOTONEXT2015 写真学会技術アカデミー（平成27年6月2日、東京ビッグサイト）
- 第23回カメラ技術セミナー（平成27年11月18日、国立オリンピック記念青少年総合センター）
- 平成27年度画像保存セミナー（平成27年、詳細未定）
- 画像関連学会連合会第二回秋季合同大会—（平成27年11月19日～20日、京都工芸繊維大学）
- CP+2016—日本写真学会企画イベント（平成28年2月25日～28日、横浜パシフィコ）
- 新規プリンティング技術セミナー（仮）（平成28年2月開催予定）

9) 西部支部主管行事

- 第49回光学五学会関西支部連合講演会（詳細未定）
- 「写真好き」のための定例講演会（6回予定、詳細未定）
- 「写真好き」のための新規講演会（平成27年、詳細未定）
- 第4回目アンビエント技術研究会セミナー（詳細未定）
- 写真好きのためのワークショップ（平成27年、詳細未定）
- 第1回科学写真セミナー（平成27年、詳細未定）

3-2 新規事業

昨年度は、6技術部会を基本に、特に写真文化拡大部会では、写真文化の拡大・写真好きの層への会員拡大のために「写真好

き」のための定例講演会の定期実施と CP+2015 等での学会企画イベントを拡大し、入会活動を行った。今年度は、これらの活動のさらなる充実を図るとともに、(昨年度立ち上げた「写真技術セミナー」改め)「写真好きのためのワークショップ」の実行委員会を今年度も継続開催し具体化を進める。また、「写真好き」のための新規講演会の立ち上げ、新規プリンティング技術特命担当、科学写真研究会、画像保存部会におけるデジタルアーカイブ研究会活動の本格化等により、次世代の画像映像情報分野を創成し、今期中のセミナー開催等の具体化に繋げる。

4. 研究及び調査の実施(定款第5条(3))

4-1 技術委員会専門研究会活動の実施

技術委員会の中に本学会の主要科学技術分野別の部会・研究会を設け、以下の活動を行うことにより、本学会会員の研究の発展と資質の向上並びに会員の増強をはかる。

特に、本学会が取り組む技術分野の拡大・充実化と写真で培った基盤技術の深耕・展開をはかるために、科学写真研究会、新規プリンティング技術特命等の新規研究会の立ち上げと積極的再構成を検討する。

又、画像入出力部会と写真文化拡大部会が主になって、写真愛好家層への学会活動の充実をはかる。

画像関連学会連合会の合同研究会の枠組み構築し、その中での活動も具体化させる。

【画像入出力部会】

部会の研究会活動を活性化する。

- ・画像入出力研究会
年次大会の企画・運営に参加する。
- ・カメラ技術研究会
年7回の研究会を開催する。「カメラ技術セミナー」を企画・運営する。
- ・表現と技術研究会
年次大会および写真好きのためのワークショップ(仮称)の企画・運営に参加する。研究会のあり方についてディスカッションする。

【アンビエント画像部会】

傘下の研究会はアンビエント画像研究会のみであり、本年度も部会と一体で活動する。

- ・アンビエント画像研究会
年1回の研究会を開催する。撮影見学会等を企画する。合同秋季大会の企画・運営に参加する。

【医用画像部会】

傘下の研究会は医用画像研究会のみであり、本年度も部会と一体で活動する。

- ・医用画像研究会
他の医用画像関係の学会とともにメディカルイメージング連合フォーラムを開催する。

【画像保存部会】

下記、研究会とともに画像保存への取り組みを推進するとともに、学会HP、学会誌にて活動を広く周知する。

- ・画像保存研究会
平成27年度画像保存セミナーを企画、実行する。
- ・デジタルアーカイブ研究会
ICAI15TRACK3において画像保存セッションの企画、実行を行う。
平成27年度の画像保存セミナーについて、参加者からの要望の高い、デジタル画像の保存とその技術についての企画を担当する。

【アンビエント技術部会】

光機能材料研究会とアンビエント技術研究会の両輪で、材料系研究における活動基盤づくりを進め、学会内外への研究会活動を展開と其々の講演研究事業の実施と国際学会および秋季大会においてアンビエント技術Sessionを企画する。

- ・アンビエント技術研究会
会員内外の参加を目的とした研究会の開催を行う。(3回開催予定。)第4回アンビエント技術セミナーを企画開催する。研究会の成果を学会誌に特集企画する。

・光機能性材料研究会

第12回光機能性材料セミナーを企画開催する。研究会の成果を学会誌に特集企画する。

【写真文化拡大部会】

写真学会と一般の写真愛好家、写真大学を中心とした学生との交流を図るだけでなく、今後は高等学校の写真部員やカメラ好きの女性にまで対象を広げていくべく活動を行っていく。そのため黑白写真教室など、専門家以外の方々を対象にした企画を行い、参加者に写真学会の存在をアピールできる活動を行ってゆく。写真学会の専門性を活かし、一般人との垣根を低くする活動を行いたい。

4-2 技術委員会 進歩レビュー分科会活動:「写真の進歩」作成

専門分野別の年次レビュー「写真の進歩」作成を行い、学会誌上で報告し、学会ホームページに掲載する。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款第5条(4))

5-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施

- 1) 画像関連学会連合会(日本画像・日本印刷・画像電子・日本写真の各学会)活動を引き続き推進し、秋季大会の合同開催、研究会の合同開催等、画像関連学会連合会の連携領域の拡大をはかる。
- 2) 画像関連学会連合会の分科活動「3Dタスクフォース」に参加し、調査・技術検討活動に加え、8月にシンポジウムを開催する。
- 3) 画像関連学会連合会第二回合同秋季大会(日本画像・日本印刷・画像電子・日本写真の各学会)を11月19日~20日に京都工芸繊維大学で実施する。)
- 4) 画像関係国際会議「1st ICAI(International Conference on Advanced Imaging)」を平成27年6月17~19日5学会(日本画像・日本印刷・画像電子・映像メディア・日本写真の各学会)で共催する。
- 5) CP+ 2016日本写真学会企画イベント(平成28年2月25日~28日、パシフィコ横浜)を実施する。
- 6) CP+ 2016技術アカデミー(平成28年2月25日~26日 カメラ映像機器工業会主催)への協力
- 7) CP+ 2016学術団体コーナー展示(共同 平成28年2月25日~28日)での学会宣伝と入会活動の展開
- 8) 2015年度PHOTONEXT技術セミナー(平成27年6月2日、東京ビッグサイト、感光材料工業会共催)
- 9) 新規プリンティング技術セミナー(日本印刷技術協会協力 平成28年2月開催予定)
- 10) アイソトープ・放射線研究発表会(平成27年度 詳細未定 日本アイソトープ協会主催)
- 11) メディカルイメージング連合フォーラム(共同開催 平成27年度 詳細未定)
- 12) 第49回光学五学会関西支部連合講演会(平成27年度 詳細未定)

5-2 国際交流に関する事項

- 1) 画像関係国際会議を「1st ICAI(International Conference on Advanced Imaging)」を平成27年6月17~19日5学会(日本画像・日本印刷・画像電子・映像メディア・日本写真の各学会)で共催する。
6. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款第5条(5))
- 6-1 平成27年度学会賞(功績賞、功労賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞、会長表彰)の授与。
- 6-2 平成27年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金の授与
- 6-3 平成27年度小島裕研究奨励金の授与
- 6-4 平成28年度学会賞(名誉賞、功績賞、功労賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞、会長表彰)受賞者の選考
- 6-5 平成28年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考
- 6-6 平成28年度小島裕研究奨励金交付対象者の選考
- 6-7 名誉会員の推薦、永年会員の認証
- 6-8 フェローの推薦と認定

7. その他目的を達するために必要な事項（定款第5条（6））

7-1 運営に関する会議

第4回社員総会（平成27年6月19日）、理事会（年7回）、庶務委員会、財務委員会、人事委員会、その他。

7-2 編集委員会（年4回）

学会誌の編集方針、内容の更新、特集・各種記事の企画、論文審査体制、著作権の整備などの検討を行う。平常業務は電子メールを活用し、委員間の意見交換を随時行う。企画編集委員会の陣容強化を図る。会員からの学会誌に関する意見聴取につとめる。学会誌の電子ジャーナル化作業を引き続き行い、同時に投稿を呼びかける。英文論文誌の掲載論文数を増加させるための方法を検討する。

7-3 技術委員会

定期的に各技術部会・研究会の代表者が集まり（電子メールによる会議含む）、研究会の活性化及び活動状況等の情報交換を行う。又、研究会、講演会、セミナーなどを適宜開催し、広く本学会内外に活動状況を提示することにより、本学会における当該科学技術分野の向上を図る。画像関係国際会議「1st ICAI (International Conference on Advanced Imaging)」および画像関連学会連合会第二回合同秋季大会へ全研究会が参加する体制を整える。

7-4 企画実行委員会

新規技術領域の講演研究事業の企画ならびに実行推進にあたるため、委員会の整備強化を図る。又、写真文化拡大活動を画像入出力部会・写真文化拡大部会が連携して進めると共に、関連学協会との連携強化を検討と実行推進を図る。

7-5 国際交流委員会

画像関係国際会議を「1st ICAI (International Conference on Advanced Imaging)」の開催を進める。議案および活動報告はその都度理事会に諮る（不定期に年数回）

7-6 広報委員会

ホームページの改善および会員へのタイムリーな情報の発信を継続的に行う。英文論文誌刊行とこれまで対応が要望されてきた課題に対応し、ホームページの更新を行う。写真関係のイベント等を通じ、一般の方々へ本会の紹介を積極的に行う。

7-7 会勢拡大委員会

各種講演会、セミナーでの正会員勧誘に加え、役員主導の勧誘活動を行う。又、賛助会員の減少を食い止めて、デジカメ関連、カメラ流通業など、従来非会員であった分野に積極的に働きかける。

新規技術部会、研究会のメンバー拡大を図り、部会・研究会の活性化を図る。

7-8 画像関連学会連合会

画像電子学会、日本印刷学会、日本画像学会と日本写真学会の会長・副会長からなる代議員会を適宜実施し、協同事業として、画像関連学会連合会合同秋季大会（平成27年度 第二回合同秋季大会）と画像に関する国際会議（ICAI2015 (The 1st International Conference on Advanced Imaging 2015)）の実施検討および合同研究会の立ち上げを検討する。

7-9 科学技術振興機構電子アーカイブ事業

科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づく例年の作業として、科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行う。

7-10 日本写真学会90周年記念事業

2016年に当会が設立90周年を迎えるに当たり、企画委員会を組織して記念事業の検討を行う。

以上

【第4号議案】平成27年度収支予算案
(12ページ参照)

【第5号議案】平成27年度役員等の選任

1-1. 新役員候補者（敬称略）

1) 理事 8名

西澤 敦（セイコーエプソン）
大関勝久（東京国立近代美術館）
郡司秀明（日本印刷技術協会）
井上義之（パナソニック）
桑山哲郎（キヤノン）
松澤良紀（オリンパス）
中野 寧（コニカミノルタ）
半那純一（東京工業大学）

2) 監事 1名

豊田堅二（武蔵野美術大学）

1-2. 残留役員（敬称略）

1) 理事 9名

甲田謙一（日本大学）
小林和久（三菱製紙）
鈴木博文（ニコン）
山田勝美（東京工芸大学）
小林裕幸（元千葉大学）
山口孝子（東京都写真美術館）
吉田哲夫（富士フイルム）
吉田英明（オリンパス）
岩崎 仁（京都工芸繊維大学）

2) 監事 1名

高田俊二（千葉大学）

参考

2. 平成27年度評議員

1) 平成27年度委嘱 17名

大石恭史（元会長）
大野隆司（千葉大学）
奥村資紀（セイコーエプソン）
北見耕一（東京工芸大学）
久保田敏弘（京都工芸繊維大学）
黒田 徹（日本放送協会放送技術研究所）
腰塚国博（コニカミノルタ）
後藤哲朗（ニコン）
古森重隆（富士フイルム）
島田文生（コニカミノルタ科学振興財団）
真栄田雅也（キヤノン）
羽生禎侍（東京工芸大学）
藤嶋 昭（東京理科大）
松田義弘（日本大学）
三宅謙一（千葉大学）
山本京之介（三菱製紙）
若尾真一郎（東京工芸大学）

2) 残留評議員 8名

阿部隆夫（信州大学）
伊沢太郎（凸版印刷）
小川治男（オリンパス）
金田英治（日本写真学会フェロー）
鈴木邦夫（三菱製紙）
田中俊夫（元京都工芸繊維大学）
谷 忠昭（日本写真学会フェロー）
松田元伸（元大阪府立大学）

3. 幹事

大川 泰輔（セイコーエプソン）
匠瑳 俊雄（ニコン）
高橋 則英（日本大学）

- 津村 徳道（千葉大学）
- 内田 孝幸（東京工芸大学）
- 桑原 孝夫（富士フイルム）
- 稲垣 由夫（富士フイルム）
- 宮本 公明（富士フイルム）
- 飯野 裕明（東京工業大学）
- 久下 謙一（千葉大学）
- 松本 政雄（大阪大学）

【第6号議案】会員の除名

定款第10条により、17名を除名とする。

以 上

報告事項と決済事項

第1号議案 平成26年度事業報告の件
議長に指名された吉田英明庶務委員長は、平成26年度の事業実施報告を説明し、その内容を報告した。

第2号議案 平成26年度決算報告・会計監査報告
議長に指名された甲田謙一財務委員長は、平成26年度の決算報告書にて収支決算を報告し、財務監査および決算書作成時に会計士資格保有の専門家の確認がされているかについて、朝日税理士法人で確認している旨を質疑を行った後、高田監事から監査の結果正鵠なることを認める監査報告があり、その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

第3号議案 平成27年度事業計画案の件
議長に指名された吉田英明庶務委員長は、平成27年度の事業計画案を説明し、その内容を報告した。

第4号議案 平成27年度収支予算案の件
議長に指名された甲田謙一財務委員長は、平成27年度収支予算書にて、平成27年度収支予算案を説明し、その内容を報告した。

第6号議案 平成27年度役員等の選任
議長は、定款第23条の規定により、平成27年度の改選役員候補の理事及び監事案の議事を行うことを宣言し、議長に指名された小林博幸選考委員長は、平成27年度の改選役員候補の理事及び監事案を説明し、その改選を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。

新任理事 西澤敦
再任理事 甲田謙一、小林和久、鈴木博文、山田勝実
新任監事 豊田堅二

第5号議案 会員の除名
議長は、定款第11条の規定により、15名の会員資格を喪失する事を説明し、その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これを承認可決した。

以上をもって本総会における報告及び全議案の審議を終了したので、議長は午後5時55分に閉会を宣した。

上記議事の経過及びその結果を明確にするため本議事録を作成し、定款21条により、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

平成27年6月17日
一般社団法人 日本写真学会 第4回定時社員総会

一般社団法人 日本写真学会 第4回定時社員総会議事録

1. 開催日時：平成27年6月17日(水) 17:20～18:00
2. 開催場所：一橋大学一橋講堂 2F 中会議場2
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2
3. 議決権を有する代議員総数
35名
4. 議決権を有する出席社員数
27名（本人出席：7名、委任状：20名）
5. 出席代議員
飯野裕明、今泉祥子、内田孝幸、清野晶宏、長倫生、前野浩、宮本公明
6. 出席役員および役員候補者
理事：井上義之、大関勝久、桑山哲郎、郡司秀明、甲田謙一、小林和久、
小林裕幸、四方律夫、西澤敦、鈴木博文、中野寧、松澤良紀、山田勝実
吉田哲夫、吉田英明
監事：高田俊二、豊田堅二
7. 議事録作成者
事務局：山岸治
8. 議事の経過の要領及びその結果
会長の小林裕幸は定款第17条の規定により、議長となり開会を宣言し、定款第19条の規定により、上記のとおり、定足数に足る代議員の出席があったので、本社員総会は適法に成立した旨を報告し、議事に入った。
ついで議長は、定款第21条の規定により、議事録署名人を指名したい旨を述べ、中野寧氏および小林和久氏を選任したい旨を述べた。その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これに賛成した。
ついで議長は、定款第14条の規定により、以下の第1号議案から第7号議案の報告及び説明と決議を行うことを宣言した。

議長 小林 裕幸

議事録署名人 中野 寧

議事録署名人 小林和久



【第2号議案】平成26年度決算報告並びに会計監査報告

貸借対照表
平成27年 3月31日現在

一般社団法人 日本写真学会		(単位:円)				
科 目		当年度	前年度	増 減		
Ⅰ 資産の部						
1. 流動資産						
現金預金		1,950,417	7,557,835	△ 5,607,418		
未 収 会 費		1,465,000	891,500	573,500		
未 収 金		115,000	0	115,000		
流動資産合計		3,530,417	8,449,335	△ 4,918,918		
2. 固定資産						
(1) 基本財産						
定期 預 金		27,000,000	27,000,000	0		
基本財産合計		27,000,000	27,000,000	0		
(2) 特定資産						
普通 預 金		6,008,272	7,009,622	△ 1,001,350		
特定資産合計		6,008,272	7,009,622	△ 1,001,350		
(3) その他固定資産						
電 話 加 入 権		74,984	74,984	0		
ソ フ ト ウ ェ ア		8,750	29,750	△ 21,000		
イ ベ ン ト 欄 登 録 プ ロ グ ラ ム		52,500	84,000	△ 31,500		
その他固定資産合計		136,234	188,734	△ 52,500		
固定資産合計		33,144,506	34,198,356	△ 1,053,850		
資産合計		36,674,923	42,647,691	△ 5,972,768		
Ⅱ 負債の部						
1. 流動負債						
未 払 金		649,941	1,308,505	△ 658,564		
前 受 金		0	47,000	△ 47,000		
預 り 金		72,435	113,643	△ 41,208		
前 受 会 費		0	817,000	△ 817,000		
仮 受 金		8,500	0	8,500		
流動負債合計		730,876	2,286,148	△ 1,555,272		
負債合計		730,876	2,286,148	△ 1,555,272		
Ⅲ 正味財産の部						
1. 指定正味財産						
指定正味財産合計		0	0	0		
(うち特定資産への充当額)	(	8,010,414)	(	8,010,414)	(	0)
2. 一般正味財産						
(うち基本財産への充当額)	(	35,944,047	(	40,361,543	(	△ 4,417,496)
正味財産合計	(	35,000,000)	(	35,000,000)	(	0)
正味財産合計		35,944,047	40,361,543	△ 4,417,496		
負債及び正味財産合計		36,674,923	42,647,691	△ 5,972,768		

正味財産増減計算書
平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで

一般社団法人 日本写真学会		(単位:円)			
科 目		当年度	前年度	増 減	
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用利息	[	2,383]	[	3,592]	[△ 1,209]
基本財産受取利息		2,383		3,592	△ 1,209
受取会費	[	9,858,500]	[	9,912,750]	[△ 54,250]
正会員受取会費		4,994,500		5,368,750	△ 374,250
賛助会員受取会費		4,864,000		4,544,000	320,000
事業収益	[	3,810,500]	[	3,961,862]	[△ 151,362]
講演・研究事業収入		3,810,500		3,961,862	△ 151,362
受取寄付金	[	400,000]	[	400,000]	[0]
受取寄付金		400,000		400,000	0
雑収入	[	1,029,120]	[	2,118,546]	[△ 1,089,426]
受取利息		9,029		8,540	489
広報・投稿料費		232,900		409,500	△ 176,600
別刷・投稿料代		237,880		1,090,740	△ 852,860
雑収入		549,311		609,766	△ 60,455
経常収益計		15,100,503		16,396,750	△ 1,296,247
(2) 経常費用					
事業費	[	9,504,335]	[	10,608,068]	[△ 1,103,733]
学会誌等刊行事業費	(	4,671,748)	(	5,220,141)	(△ 548,393)
事務員給与		0		21,000	△ 21,000
学会誌送付費		917,537		348,570	568,967
文通費		764		0	764
印刷製本費		3,424,503		4,507,139	△ 1,082,636
雑誌編集費		13,944		70,122	△ 56,178
J-STAGE編集費		72,000		4,000	68,000
J-STAGE編集費		243,000		246,750	△ 3,750
審査校正料		0		22,560	△ 22,560
講演研究事業費(1)	(	2,729,871)	(	2,442,891)	(△ 286,980)
給料手当		99,580		216,500	△ 116,920
旅費交通費		628,930		397,950	230,980
会場通費		156,063		129,584	26,479
通信搬費		17,825		31,782	△ 13,957
会議費		159,400		184,980	△ 25,580
消耗品費		26,558		0	26,558
諸謝金		516,480		547,047	△ 30,567
印刷製本費		408,224		243,075	165,149
雑費		17,854		52,073	△ 34,219
参加者会合費		698,957		639,900	59,057
講演研究事業費(2)	(	80,087)	(	630,520)	(△ 550,433)
給料		0		25,000	△ 25,000
参加会合費		0		27,348	△ 27,348
旅費交通費		35,000		100,920	△ 65,920
会場通費		1,200		43,900	△ 42,700
通信搬費		0		164,765	△ 164,765
会議費		22,050		20,877	1,173
諸消耗品費		0		4,374	△ 4,374
諸謝金		0		183,414	△ 183,414
印刷製本費		21,081		48,825	△ 27,744
雑費		756		11,097	△ 10,341
奨励助成事業	(	1,448,122)	(	1,651,246)	(△ 203,124)
奨励助成金		1,448,122		1,651,246	△ 203,124

科 目		当年度	前年度	増 減							
給 料 手 当		344,816	362,953	△ 18,137							
旅 費 交 通 費		47,070	45,414	1,656							
租 税 公 課		325	81	244							
福 利 厚 生 費		52,598	61,640	△ 9,042							
諸 謝 金		129,698	193,182	△ 63,484							
管 理 費	[	10,013,664]	[	11,077,579]	[	△ 1,063,915]					
給 料 手 当	(	4,879,665)	(	5,136,327)	(	△ 256,662)					
事 務 員 給 当 料		4,879,665		5,136,327	△ 256,662						
会 費 負 担 金		164,000		132,500	31,500						
旅 費 交 通 費	(	706,723)	(	1,100,796)	(	△ 394,073)					
事 務 員 交 通 費		666,115		645,016	21,099						
役 員 交 通 費		40,608		455,780	△ 415,172						
減 価 償 却 費		52,500		52,500	0						
通 信 運 搬 費		440,632		343,423	97,209						
租 税 公 課		71,967		72,369	△ 402						
消 耗 品 費		325,745		108,603	217,142						
福 利 厚 生 費	(	744,349)	(	872,305)	(	△ 127,956)					
法 定 福 利 費		744,349		872,305	△ 127,956						
賃 借 料		123,210		123,480	△ 270						
諸 謝 金		2,051,422		2,733,812	△ 682,390						
印 刷 製 本 費		144,420		51,640	92,780						
事 務 所 維 持 管 理 費		200,000		200,000	0						
雑 費		109,031		149,824	△ 40,793						
経常費用計		19,517,999		21,685,647	△ 2,167,648						
評価損益等調整前当期経常増減額	△	4,417,496	△	5,288,897	871,401						
評価損益等計		0		0	0						
当期経常増減額	△	4,417,496	△	5,288,897	871,401						
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計						0	0	0			
(2) 経常外費用											
経常外費用計						0	0	0			
当期経常外増減額						0	0	0			
他 会 計 振 替 額						[	0]	[	△ 20]	[	△ 20]
当期一般正味財産増減額						△	4,417,496	△	5,288,877		871,381
一般正味財産期首残高							40,361,543		45,650,420	△	5,288,877
一般正味財産期末残高							35,944,047		40,361,543	△	4,417,496
II 指定正味財産増減の部											
当期指定正味財産増減額							0		0		0
指定正味財産期首残高							0		0		0
指定正味財産期末残高							0		0		0
III 正味財産期末残高							35,944,047		40,361,543	△	4,417,496

予算対比正味財産増減計算書

平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで

一般社団法人 日本写真学会 (単位:円)			
科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[50,000]	[2,383]	[47,617]
基本財産受取利息	50,000	2,383	47,617
受取会費	[11,500,000]	[9,858,500]	[1,641,500]
正会員受取会費	6,500,000	4,994,500	1,505,500
賛助会員受取会費	5,000,000	4,864,000	136,000
事業収益	[5,938,600]	[3,810,500]	[2,128,100]
講演・研究事業収入	5,938,600	3,810,500	2,128,100
受取寄付金	[400,000]	[400,000]	[0]
受取寄付金	400,000	400,000	0
雑収益	[2,975,000]	[1,029,120]	[1,945,880]
受取利息	20,000	9,029	10,971
広告費	615,000	232,900	382,100
別刷・投稿料代	400,000	237,880	162,120
雑収益	1,940,000	549,311	1,390,689
経常収益計	20,963,600	15,100,503	5,763,097
(2) 経常費用			
事業費	[10,485,700]	[9,504,335]	[981,365]
学会誌等刊行事業費	(4,854,200)	(4,671,748)	(182,452)
事務員給与	40,000	0	40,000
学会誌送費	240,000	917,537	△ 677,537
印刷通本費	0	764	△ 764
印刷製本費	2,670,000	3,424,503	△ 754,503
原稿費	14,200	13,944	256
J-STAGE編集費	40,000	72,000	△ 32,000
J-STAGE編集費	1,770,000	243,000	1,527,000
校正料	80,000	0	80,000
講演研究事業費(1)	(3,468,500)	(2,729,871)	(738,629)
給料手当	277,500	99,580	177,920
旅費交通費	535,000	628,930	△ 93,930
会場費	377,000	156,063	220,937
通信運搬費	52,000	17,825	34,175
会議費	157,500	159,400	△ 1,900
消耗品費	27,000	26,558	442
諸謝金	721,000	516,480	204,520
印刷製本費	542,500	408,224	134,276
雑費	99,000	17,854	81,146
参加者会合費	680,000	698,957	△ 18,957
講演研究事業費(2)	(813,000)	(80,087)	(732,913)
給料手当	10,000	0	10,000
参加者会合費	5,000	0	5,000
旅費交通費	105,000	35,000	70,000
会場費	50,000	1,200	48,800
通信運搬費	113,000	0	113,000
会議費	193,000	22,050	170,950
消耗品費	15,000	0	15,000
諸謝金	140,000	0	140,000
印刷製本費	55,000	21,081	33,919
雑費	127,000	756	126,244
奨励助成事業	(1,350,000)	(1,448,122)	(△ 98,122)
奨励助成金	1,350,000	1,448,122	△ 98,122

科 目	予算額	決算額	差 異
給料手当	0	344,816	△ 344,816
旅費交通費	0	47,070	△ 47,070
租税公課	0	325	△ 325
福利厚生費	0	52,598	△ 52,598
諸謝金	0	129,698	△ 129,698
管理費	[10,736,000]	[10,013,664]	[722,336]
給料手当	(5,500,000)	(4,879,665)	(620,335)
事務員給与	5,500,000	4,879,665	620,335
会費負担金	159,000	164,000	△ 5,000
旅費交通費	(1,150,000)	(706,723)	(443,277)
事務員交通費	700,000	666,115	33,885
役員交通費	450,000	40,608	409,392
減価償却費	0	52,500	△ 52,500
維持修繕費	50,000	0	50,000
通信運搬費	400,000	440,632	△ 40,632
租税公課	100,000	71,967	28,033
消耗品費	10,000	0	10,000
福利厚生費	150,000	325,745	△ 175,745
法定福利費	(700,000)	(744,349)	(△ 44,349)
賃借料	700,000	744,349	△ 44,349
諸謝金	20,000	123,210	△ 103,210
印刷製本費	1,847,000	2,051,422	△ 204,422
印刷製本費	150,000	144,420	5,580
事務所維持管理費	200,000	200,000	0
雑費	300,000	109,031	190,969
経常費用計	21,221,700	19,517,999	1,703,701
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 358,100	△ 4,417,496	4,059,396
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 358,100	△ 4,417,496	4,059,396
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 358,100	△ 4,417,496	4,059,396
一般正味財産期首残高	0	40,361,543	△ 40,361,543
一般正味財産期末残高	△ 358,100	35,944,047	△ 36,302,147
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 358,100	35,944,047	△ 36,302,147

会計別正味財産増減計算書 (税込・発生)

平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで

一般社団法人 日本写真学会					
科 目	コード	実施事業会計	その他会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	501	[0]	[0]	[2,383]	[2,383]
基本財産受取利息		0	0	2,383	2,383
受取会費	515	[0]	[0]	[9,858,500]	[9,858,500]
正会員受取会費		0	0	4,994,500	4,994,500
賛助会員受取会費		0	0	4,864,000	4,864,000
事業収益	521	[0]	[3,810,500]	[0]	[3,810,500]
講演・研究事業		0	3,810,500	0	3,810,500
受取寄付金	535	[0]	[400,000]	[0]	[400,000]
受取寄付金		0	400,000	0	400,000
雑収益	541	[692,029]	[38,614]	[298,477]	[1,029,120]
受取利息		1,601	0	7,428	9,029
広告費		232,900	0	0	232,900
別刷・投稿料代		231,880	0	6,000	237,880
雑収益		225,648	38,614	285,049	549,311
経常収益計		692,029	4,249,114	10,159,360	15,100,503
(2) 経常費用					
事業費	611	[4,759,070]	[4,745,265]	[0]	[9,504,335]
学会誌等刊行		(4,671,748)	(0)	(0)	(4,671,748)
学会誌送費		917,537	0	0	917,537
交通費		764	0	0	764
印刷製本費		3,424,503	0	0	3,424,503
雑費		13,944	0	0	13,944
原稿費		72,000	0	0	72,000
J-STAGE編集費		243,000	0	0	243,000
講演研究事業費	(0)	(2,729,871)	(0)	(0)	(2,729,871)
給料手当		0	99,580	0	99,580
旅費交通費		0	628,930	0	628,930
会場費		0	156,063	0	156,063
通信運搬費		0	17,825	0	17,825
会議費		0	159,400	0	159,400
消耗品費		0	26,558	0	26,558
諸謝金		0	516,480	0	516,480
印刷製本費		0	408,224	0	408,224
雑費		0	17,854	0	17,854
参加者会合費		0	698,957	0	698,957
講演研究事業費	(0)	(80,087)	(0)	(0)	(80,087)
旅費交通費		0	35,000	0	35,000
会場費		0	1,200	0	1,200
会議費		0	22,050	0	22,050
印刷製本費		0	21,081	0	21,081
雑費		0	756	0	756
奨励助成事業	(0)	(1,448,122)	(0)	(0)	(1,448,122)
奨励助成金		1,448,122	0	0	1,448,122
給料手当		52,245	292,571	0	344,816
旅費交通費		7,132	39,938	0	47,070
租税公課		325	0	0	325
福利厚生費		7,969	44,629	0	52,598
諸謝金		19,651	110,047	0	129,698
管理費	621	[0]	[0]	[10,013,664]	[10,013,664]
給料手当		(0)	(0)	(4,879,665)	(4,879,665)
事務員給料		0	0	4,879,665	4,879,665
会費負担金		0	0	164,000	164,000

会計別正味財産増減計算書 (税込・発生)

平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで

一般社団法人 日本写真学会					
科 目	コード	実施事業会計	その他会計	法人会計	合 計
旅費交通費		(0)	(0)	(706,723)	(706,723)
事務員交通費		0	0	666,115	666,115
役員交通費		0	0	40,608	40,608
減価償却費		0	0	52,500	52,500
通信運搬費		0	0	440,632	440,632
租税公課		0	0	71,967	71,967
消耗品費		0	0	325,745	325,745
福利厚生費	(0)	(0)	(0)	(744,349)	(744,349)
法定福利費		0	0	744,349	744,349
賃借料		0	0	123,210	123,210
諸謝金		0	0	2,051,422	2,051,422
印刷製本費		0	0	144,420	144,420
事務所維持管理費		0	0	200,000	200,000
雑費		0	0	109,031	109,031
経常費用計		4,759,070	4,745,265	10,013,664	19,517,999
評価損益調整前当期増減額		-4,067,041	-496,151	145,696	-4,417,496
評価損益等計		0	0	0	0
当期経常増減額		-4,067,041	-496,151	145,696	-4,417,496
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計		0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計		0	0	0	0
当期経常外増減額		0	0	0	0
他会計振替額	650	[-5,194,594]	[-1,595,228]	[6,789,822]	[0]
当期一般正味財産増減額		1,127,553	1,099,077	-6,644,126	-4,417,496
一般正味財産期首残高		0	0	0	0
一般正味財産期末残高		1,127,553	1,099,077	-6,644,126	-4,417,496
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額		0	0	0	0
指定正味財産期首残高		0	0	0	0
指定正味財産期末残高		0	0	0	0
III 正味財産期末残高		1,127,553	1,099,077	-6,644,126	-4,417,496

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却の方法
- ソフトウェアの減価償却方法は5年に基づく定額法によっている。
- (2) リース取引の処理方法
- リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。
- (3) 消費税等の会計処理
- 消費税等の会計処理は、税込方式により処理している。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目				前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	定 期 預 金			27,000,000	0	0	27,000,000
	普 通 預 金			0	8,000,000	8,000,000	0
	小 計			27,000,000	8,000,000	8,000,000	27,000,000
特定資産	普 通 預 金			7,009,622	1,002,754	2,004,104	6,008,272
	小 計			7,009,622	1,002,754	2,004,104	6,008,272
	合 計			34,009,622	9,002,754	10,004,104	33,008,272

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目				当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産	定 期 預 金			27,000,000		(27,000,000)	－
	小 計			27,000,000	0	27,000,000	－
特定資産	普 通 預 金			6,008,272	(6,008,272)		－
	小 計			6,008,272	(6,008,272)		－
	合 計			33,008,272	(6,008,272)	(27,000,000)	－

- 4-1. 固定資産の取得価額、増減、減価償却累計額及び当期末残高
- 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他固定資産			
ソ フ ト ウ エ ア	105,000	96,250	8,750
イベント欄登録プログラム	157,500	105,000	52,500
合 計	262,500	201,250	61,250

- 4-2. 固定資産の増減額及び当期末残高は次のとおりである。

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
その他固定資産				
ソ フ ト ウ エ ア	29,750		21,000	8,750
イベント欄登録プログラム	84,000		31,500	52,500
合 計	113,750	0	52,500	61,250

財産目録

平成27年 3月31日現在

一般社団法人 日本写真学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額		
(流動資産)	現金	本部手許有高 支部手許有高	運転資金として 運転資金として	(37,584) 8,503 29,081		
	預金			(1,912,833)		
	普通預金	三菱東京UFJ銀行／新宿中央4519541(杉浦氏) みずほ銀行／中野坂上6323138(杉浦氏) 三井住友銀行／中野坂上4174418(運用口) 京都中央信用金庫／長岡0927706(支部) 三菱UFJ信託銀行／新宿2746816(本部) みずほ銀行／中野坂上1917722(写真工学) 三井住友信託／新宿 5401808(本部) ゆうちょ銀行／東京 地方貯金局00130-6-7281 外資預金三菱東京UFJ／新宿中央3074454		727,333 75,123 18,208 4,469 120,010 395 1,347 927,560 38,388		
	未収会費 正会員会費			(1,465,000) 1,465,000		
	未収入金		学会誌投稿料	(115,000) 115,000		
	流動資産合計				[3,530,417]	
	(固定資産)	基本財産			(27,000,000)	
		普通預金	三井住友信託／新宿 5401808(本部)		0	
		定期預金	三菱東京UFJ銀行／新宿中央4519541(杉浦氏) みずほ銀行／中野坂上6323138(杉浦氏) 三菱UFJ信託／新宿26802009(杉浦氏) 三井住友信託銀行／新宿7543251-01(杉浦氏)		10,000,000 5,000,000 10,000,000 2,000,000	
		特定資産			(6,008,272)	
		普通預金	みずほ信託／新宿4439856(小島裕氏基金)		6,008,272	
		その他固定資産	電話加入権 ソフトウェア イベント欄登録プログラム		(136,234) 74,984 8,750 52,500	
		固定資産合計				[33,144,506]
資産合計					[36,674,923]	
(流動負債)		未払金	中西印刷㈱ KDDI、NTT東日本	学会誌印刷、J-STAGE登録料 通話料	(640,941) 646,816 3,125	
		預り金	中野税務署 中野年金事務所	源泉所得税 社会保険料(従業員預り分)	12,650 59,785	
		仮受金		繰入金分	(8,500)	
		流動負債合計				[730,876]
		負債合計				[730,876]
正味財産				[35,944,047]		

平成 26 年度監査報告

一般社団法人 日本写真学会
会長 小林 裕幸 殿

私たち監事は、当法人の平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの平成 26 年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 9 9 条第 1 項（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 1 9 7 条において準用する同法第 9 9 条第 1 項）及び一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 3 6 条及び第 4 5 条（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 6 4 条において準用する同規則第 3 6 条及び第 4 5 条）の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧し、当協会の主たる事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について監査しました。

2 監査の結果

(1)事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当協会の状況を正しく示しているものと認めます。
 - ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (2)計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等の監査結果
- 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当協会の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 27 年 4 月 22 日

監事 三宅 洋一
監事 高田 俊二

【第 4 号議案】平成 27 年度収支予算書

収支予算書

平成27年 4月 1日から平成28年 3月31日まで

一般社団法人 日本写真学会 (単位:円)			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[3,594]	[50,000]	[△ 46,406]
基本財産受取利息	3,594	50,000	△ 46,406
受取会費	[10,120,000]	[11,500,000]	[△ 1,380,000]
正会員受取会費	5,640,000	6,500,000	△ 860,000
賛助会員受取会費	4,480,000	5,000,000	△ 520,000
事業収益	[5,315,000]	[5,938,600]	[△ 623,600]
講演・研究事業収入	5,315,000	5,938,600	△ 623,600
受取寄付金	[600,000]	[400,000]	[200,000]
受取寄付金	600,000	400,000	200,000
雑収入	[2,118,546]	[2,975,000]	[△ 856,454]
受取利息	8,540	20,000	△ 11,460
広報・告費	409,500	615,000	△ 205,500
別刷・投稿料	1,090,740	400,000	690,740
雑収入	609,766	1,940,000	△ 1,330,234
経常収益計	18,157,140	20,863,600	△ 2,706,460
(2) 経常費用			
事業費	[8,898,000]	[10,485,700]	[△ 1,587,700]
学会誌等刊行事業費	(3,750,000)	(4,854,200)	(△ 1,104,200)
事務員給与	60,000	40,000	20,000
学会誌発送費	350,000	240,000	110,000
印刷製本費	3,000,000	2,670,000	330,000
雑費	10,000	14,200	△ 4,200
原稿編集費	60,000	40,000	20,000
J - S T A G E 編集費	250,000	1,770,000	△ 1,520,000
査校正料	20,000	80,000	△ 60,000
講演研究事業費 (1)	(3,040,000)	(3,468,500)	(△ 428,500)
給料手当	324,000	277,500	46,500
旅費	350,000	535,000	△ 185,000
会場費	206,000	377,000	△ 171,000
通信搬費	50,000	52,000	△ 2,000
会議費	85,000	157,500	△ 72,500
消耗品費	0	27,000	△ 27,000
諸謝金	778,000	721,000	57,000
印刷製本費	521,000	542,500	△ 21,500
雑費	71,000	99,000	△ 28,000
参加者会合費	655,000	680,000	△ 25,000
講演研究事業費 (2)	(558,000)	(813,000)	(△ 255,000)
給料	0	10,000	△ 10,000
参加会合費	0	5,000	△ 5,000
旅費	70,000	105,000	△ 35,000
会場費	60,000	50,000	10,000
通信搬費	113,000	113,000	0
会議費	63,000	193,000	△ 130,000
消耗品費	5,000	15,000	△ 10,000
諸謝金	140,000	140,000	0
印刷製本費	0	55,000	△ 55,000
雑費	107,000	127,000	△ 20,000
奨励助成事業	(1,550,000)	(1,350,000)	(200,000)
奨励助成金	1,550,000	1,350,000	200,000
管理費	[8,901,480]	[10,736,000]	[△ 1,834,520]

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
給料手当	(3,999,300)	(5,500,000)	(△ 1,500,700)
事務員給与	3,999,300	5,500,000	△ 1,500,700
会費負担金	239,000	159,000	80,000
旅費	(1,060,400)	(1,150,000)	(△ 89,600)
事務員交通費	560,400	700,000	△ 139,600
役員交通費	500,000	450,000	50,000
減価償却費	52,500	0	52,500
維持修繕費	0	50,000	△ 50,000
通信運搬費	350,000	400,000	△ 50,000
租税公課	75,000	100,000	△ 25,000
会議費	0	10,000	△ 10,000
消耗品費	100,000	150,000	△ 50,000
福利厚生費	(653,800)	(700,000)	(△ 46,200)
法定福利費	653,800	700,000	△ 46,200
賃借料	123,480	20,000	103,480
諸謝金	1,847,000	1,847,000	0
印刷製本費	51,000	150,000	△ 99,000
事務所維持管理費	200,000	200,000	0
雑費	150,000	300,000	△ 150,000
経常費用計	17,799,480	21,221,700	△ 3,422,220
評価損益等調整前当期経常増減額	357,660	△ 358,100	715,760
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	357,660	△ 358,100	715,760
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	357,660	△ 358,100	715,760
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	357,660	△ 358,100	715,760
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	357,660	△ 358,100	715,760

収支予算書(収支)

平成27年 4月 1日から平成28年 3月31日まで

一般社団法人 日本写真学会 (単位:円)			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
事業活動収入計	0	0	0
2. 事業活動支出			
事業活動支出計	0	0	0
事業活動収支差額	0	0	0
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0